

# 家畜感染症対策 医療機関用を改良



星光技研が開発した超音波噴霧器。除菌効果のある水溶液を噴霧する

昨年秋ごろ、北海道の販売代理店から「家畜に使える噴霧器が欲しい」と提案されたのがきっかけ。医療機関向けの製品はインフルエンザなどが流行する冬期の需要が中心で「通年販売できる製品を育てたい」との狙いもあった。幅49センチ、高さ34センチ、奥行き28センチのステンレス製。上部に噴霧用のホースが4本ある。広い畜舎で使えるよう高速で振動して霧を作り出す振動子を増やし、従来製品で1時間2センチだった噴霧能力を同6センチに引き上げた。北海道のような寒冷地を想定し、マイナス

# 畜舎除菌の噴霧器開発

## 長野・星光技研 秋めどに販売

超音波噴霧器など製造の星光技研(長野市)は、除菌効果のある「次亜塩素酸水」を噴霧する畜産用の超音波噴霧器を開発した。今月、豚流行性下痢(PED)が県内で初確認されるなど家畜の感染症リスクの高まりに応じ、医療機関向けの自社製商品を畜舎で使えるよう改良。農家の声を踏まえてさらに改良し、秋をめどに量産、販売する。

けいぎん 信州発

30度でも消毒液や機器が凍結しないようヒーターも内蔵。畜舎内のほこりやごみを吸い込まないよう、フィルターの機能も高めた。

現在、北海道の酪農家や九

州の養鶏農家などが試験的に使用中。価格は5万円前後を想定しているが、不要な機能を削るなどして価格を抑えることも検討している。来年3月までに100台の販売を目

指す。坂本真悟・超音波事業部長は「県内でも畜産業界に強い販売店と代理店契約を結び、販路を広げたい」と話している。